

私達は多くの課題に直面するであろう。だが、私達はまた、いかなる課題をも克服するであろう。

Lesson23

時制 3：未来について述べる表現／

私達は多くの課題に直面するであろう。
だが、私達はまた、いかなる課題をも克服するであろう。

We are going to face many challenges, but we shall overcome any challenges.

未来のことについて述べることができる表現は **will**、**shall**、**be going to** ～、現在進行形、未来進行形、現在形などさまざまな表現があります。これらは意味や使い方が異なるため、それぞれの違いを理解しておくことがとても重要です。**We are going to face many challenges, but we shall overcome any challenges.** 「私達は多くの課題に直面するであろう。だが、私達はまた、いかなる課題をも克服するであろう。」では、**be going to** と **shall** を使って**未来**のことを表現しています。

このレッスンを受講することで**未来**について述べる表現について理解できます。

Topics

時制 3：未来について述べる表現/We are going to face many challenges, but we shall overcome any challenges.

- Topic1 未来について述べる表現**
- will
 - shall
 - be going to ～
 - 現在進行形
 - 現在形
 - 未来進行形
 - be to ～
 - will と be going to の注意点

Wrap-up

DVD 版では練習問題の解説も行います。



**We are going to face many challenges,
but we shall overcome any challenges.**

■ Topic1

未来について述べる表現

未来のことを述べることができる表現には **will, shall, be going to, be to, 現在進行形、未来進行形、現在形** などがあります。これらはすべて **未来** のことを表現できるのですが、意味や使い方に違いがあるので注意してください。

● will

助動詞 **will** は**単純未来**、**意志未来**を表現します。

- ・ **単純未来**「～でしょう」: 自然に起こること。

I will be twenty-seven years old next month. 「来月私は 27 歳になります。」

It will rain tomorrow. 「明日は雨になるでしょう。」

- ・ **意志未来**「～するつもりだ」: 話し手や主語の意志。

I will call you tonight. 「今晚あなたに電話します。」

What will you do next? 「あなたは次に何をするつもりですか。」

注意: **will** は「～してくれますか?」のように、(未来のことについて) 現在の相手の意志を尋ねる **依頼** の意味で使うこともあります。

Will you show me the way to the station? 「その駅までの道を教えてくださいませんか?」

これは**相手の意思**を尋ねる**依頼表現**です。

Would you show me the way to the station? 「その駅までの道を教えてくださいませんか?」

という**丁寧表現**もあります。**will** を **would** (過去形) に変えることでより丁寧な表現になります。

● shall

助動詞 **shall** 「～でしょう、必ず～となるだろう」は**強い意志**を表します。

We shall prevail. 「私たちは勝ちます。」

この文では、私達は勝つという**強い意志**を表現しています。ただし、日常的な状況ではあまり使われない表現です。

注意: **shall** は**相手の意向**を丁寧に尋ねる**提案**の意味にも使います。

私達は多くの課題に直面するであろう。だが、私達はまた、いかなる課題をも克服するであろう。

注意： **Shall I ~?** は**提案**の意味になりますが、相手に頼みたい場合は **Shall you ~?**とはせず、**Will you ~?**を使います。

注意： **Let's dance.** 「踊ろうよ。」でも提案の意味になりますが、**Shall we ~?** ほど上品な提案にはなりません。**Let's** の付加疑問文は **shall we** を使い **Let's dance, shall we?** となります。こうすると **let's** の文よりも丁寧な印象の文になります。

表現	意味	例文
Shall I / we ~?	提案	Shall I close the window? 「窓を閉めましょうか？」 Shall we dance? 「踊りましょうよ。」
Shall you ~?	×	
Will you ~?	依頼	Will you close the window? 「窓を閉めてくれますか？」
Will I ~?	×	
May I ~?	許可	May I see your driver's license? 「免許証を見せていただけますか？」
May you ~?	×	
Can I /we ~?	許可	Can I use this phone? 「この電話を使っても良いですか？」 Can we stay here? 「私達はここにいても良いですか？」
Can you ~?	依頼	Can you show me the way to the station? 「駅までの道を案内していただけますか？」

●be going to ~

be going to ~ 「~するだろう、~するつもりだ」は話す前から既にするつもりでいたこと、確実に起こると思われることを表現します。**to** の後ろには動詞の原形がきます。

I am going to stay home and watch the football game.

「私は家にいてサッカーの試合を見るつもりです。」

It is going to rain this afternoon. 「今日の午後は雨らしい。」

●現在進行形

現在進行形で**確定的な予定**を表現することができます。特に**個人的な予定**について述べることが多いです。

We are playing tennis tomorrow morning. 「明日の朝はテニスをする予定です。」

Lesson23 時制 3:未来について述べる時制／

私達は多くの課題に直面するであろう。だが、私達はまた、いかなる課題をも克服するであろう。

I am leaving for Buenos Aires this afternoon.

「私は今日の午後ブエノスアイレスに向けて発ちます。」

未来のことを表現する場合は混乱をさけるため、「**時**」を意味する**単語**をつけることが多いです。

●**現在形**

確実となり、**変更の可能性がない未来の予定や計画**などについて**現在形**で表現することがあります。主に時刻表や予定表で確定していることについて使います。

My flight departs at 9:00pm tomorrow. 「私の乗る飛行機は明日の午後9時に出発します。」

The next meeting is on Friday. 「次のミーティングは金曜日です。」

●**未来進行形**

未来のある時点で**進行中**であると思われることについて使い、**will be + ~ing 形**で表現します。また、**未来進行形**の**will**には**意志の意味**がありません。

I will be studying this time tomorrow. 「明日の今頃は勉強しているでしょう。」

We will be waiting for you in that restaurant at 5:00.

「私達はあのレストランで、5時にあなたのことを待っているでしょう。」

●**be to ~**

be to ~は「~することになっている」という**予定**の意味を表現します。固い感じのする表現でフォーマルな状況で使われることが多いです。

The head of each department is to announce the budget for next year.

「各部のトップが来年の予算を発表することになっています。」

A news conference is to be held this afternoon.

「今日の午後記者会見をすることになっています。」

私達は多くの課題に直面するであろう。だが、私達はまた、いかなる課題をも克服するであろう。

●will と be going to の注意点

will と **be going to** はどちらも**未来**を表現するために使う基本的な語句ですが、そのニュアンスが異なります。

・意志未来

will ではその時思ったことを表現するのに対して、**be going to** では前から決まっていた**予定**を表現します。

a: Can you explain to Mr. Kimura how the plant will operate?

「木村さんにどのようにプラントが動くか説明してもらえますか？」

b: OK, I will do that. 「はい。そうします。」

a: What are your plans for the weekend? 「週末の計画は何ですか？」

b: I am going to see a friend of mine. 「友人に会いに行く予定です。」

注意：現在進行形も既に決まっている予定について表現します。

a: What are your plans for the weekend? 「週末の計画は何ですか？」

b: We are going to Canada. 「カナダに行く予定です。」

・予測

will は単に話し手の推測・確信を表現するのに対して、**be going to** は現在の状況からそうなることが明らかにわかる時に使います。

	例文
will	It will rain tomorrow. 「明日は雨でしょう。」
be going to	It is going to rain tonight. 「今晩は雨になります。」

Lesson23 時制 3:未来について述べる時制／

私達は多くの課題に直面するであろう。だが、私達はまた、いかなる課題をも克服するであろう。

スコアアップ！

(DVD 版のみ収録)



例題：If you study hard, you _____ a good grade.

- a. are getting
- b. will get
- c. be going to get

b. will get が答えになります。

a. are getting (現在進行形) では確定的な予定を表現します。でも、試験の結果については確定的な予定とは考えにくいですし、**you** を主語にして相手の予定を勝手に述べてしまうのも不自然です。**c. be going to get** は **be** が原形なのでダメです。**are going to get** なら正しい文です。従って、**b. will get** 「もらえるでしょう」(単純未来) だけが、正しい意味の通る選択肢です。

If you study hard, you will get a good grade.

「一生懸命勉強すれば、あなたは良い成績をもらえるでしょう。」

We shall overcome. 「勝利をわれらに」(日本語訳) という歌を聞いたことはありますか？ 1960年代のアメリカで **We Shall Overcome.** は公民権運動のシンボリックな歌となった曲です。**Pete Seeger** や **Joan Baez** が歌い全米中にこの曲を広めました。

歌は **We shall overcome. We shall overcome. We shall overcome someday.** と繰り返しがつづき、シンプルで覚えやすいメロディーです。

We shall overcome. は直訳すると「私達は克服するぞ。」という意味になります。ここの **shall** は強い決意を表現するために使われています。その当時の不条理な社会の状況をいつか克服してやろうという決意だったに違いありません。

でも、**We shall overcome.** の原曲では **We will overcome.** となっていたそうです。これをあえて、**shall** に変えたそうです。つまり、それによってより強い意志を歌詞に込めたわけですね。

We shall overcome. と変えたことで印象に残る歌になったのです。

コーヒーブレーク (DVD 版のみ収録)

私達は多くの課題に直面するであろう。だが、私達はまた、いかなる課題をも克服するであろう。

Wrap-up

- 未来の事を表現する形は多い。
- **will** と **be going to** は意味や使い方が異なる。
- 現在形や現在進行形も未来のことを意味することがある。

We are going to face many challenges, but we shall overcome any challenges.

「私達は多くの課題に直面するであろう。

だが、私達はまた、いかなる課題をも克服するであろう。」

主語 代名詞
we 「私達は」

述語動詞 be going to + 動詞 (原形)
are going to face 「直面するだろう」

目的語 形容詞 + 名詞
many challenges 「多くの課題」

接続詞
but 「しかし」

主語 代名詞
we 「私達は」

述語動詞 助動詞 + 動詞 (原形)
shall overcome 「克服するだろう」

目的語 形容詞 + 名詞
any challenges 「いかなる課題も」



Lesson23 時制 3:未来について述べる時制／

私達は多くの課題に直面するであろう。だが、私達はまた、いかなる課題をも克服するであろう。

Practice

先生の解説を聞き、下記の練習問題を解いてみましょう。(DVD版のみ収録)

1. The daughter of the general manager _____ twelve years old tomorrow.
a. is to
b. was
c. will be
d. has become
2. We _____ in the middle of the Caribbean Sea this time tomorrow.
a. cruised
b. cruising
c. will be cruising
d. have cruised
3. The opening ceremony _____ at 9:00 so please get back to your seat by 8:55.
a. is to start
b. started
c. has started
d. be starting

Homework

このレッスンに関連した下記の練習問題に挑戦してみましょう。

1. When I called Ms. Wei at her office this morning, she said to me, "I _____ you back sometime this afternoon."
a. have called
b. will call
c. be to call
d. calling
2. I am sorry but I cannot attend the meeting because I _____ a workshop tomorrow.
a. have attended
b. be able to attend
c. am going to attend
d. be able to attend
3. With the competition getting tougher, the management team _____ with more innovative ideas to survive in the market, even though how hard it may be.
a. came up
b. be coming up
c. are having to come up
d. will have to come up

私達は多くの課題に直面するであろう。だが、私達はまた、いかなる課題をも克服するであろう。

■ Explanation - Practice

1. The daughter of the general manager will be twelve years old tomorrow.

「部長の娘さんは明日で12歳になります。」

解説：c. **will be** 「～になるでしょう」（単純未来の **will + be** 動詞の原形）が答えです。明日12歳になるということは自然に起こることなので単純未来の **will** が答えです。

a. **is to** 「～することになっている」（3人称単数の **be** 動詞 + **to**）では予定を表現できますが、**to** の後ろに動詞が必要なためここでは入れることができません。b. **was** 「～でした」（1人称単数、3人称単数の **be** 動詞の過去形）は **tomorrow** 「明日」（副詞）という未来を表す表現があり、時制が一致しないためダメです。d. **has become** 「～になった」（**has** の三人称単数現在形 + **become** の過去分詞）は現在完了形を作りますが、現在完了形では未来のことについて述べることはできません。

2. We will be cruising in the middle of the Caribbean Sea this time tomorrow.

「明日の今頃の時間はカリブ海の真ん中をクルーズしていることでしょう。」

解説：c. **will be cruising** 「クルーズしていることでしょう」（助動詞 + **be** 動詞の原形 + 動詞の **ing** 形）は未来進行形となりこれが答えです。**this time tomorrow** 「明日の今頃」という未来のある時点を指定する語句があるので、未来のある時点で進行中の動作について述べることができる未来進行形が良いです。

a. **cruised** 「クルーズした」（動詞の過去形）ですが、**this time tomorrow** 「明日の今頃」と未来の一時点を示す表現があるのが問題です。b. **cruising** 「クルーズすること」（動名詞・現在分詞）は **be** 動詞がないと文を構成することができません。d. **have cruised** 「クルーズしたことがある」（**have** + 過去分詞）では未来のことではなく現在までの経験について述べるのでダメです。

3. The opening ceremony is to start at 9:00 so please get back to your seat by 8:55.

「開会式は9時に始まる予定ですので、8時55分までにはお席にお戻りください。」

解説：a. **is to start** 「始まることになっている」（**be** 動詞 + **to** + 動詞の原形）が答えです。いつまでに席に戻るよという指示をしているので、式が始まる時間（未来のこと）を案内していると考えられます。また、式が開始される時間はもともと決まっている予定と考えられますので、予定の意味になる **be to** ～ 「～することになっている」が良いです。

b. **started** 「始まった」（動詞の過去形）は未来のことは意味できません。c. **has started** 「既に始まった」（**have** の三人称単数現在形 + 過去分詞）は現在完了形を作りますが、これにある一時点を意味する **at 9:00** は付けられません。d. **be starting** 「始まりつつある」（**be** 動詞 + **ing** 形）は動詞の原形なので主語にそのまま付けることはできません。助動詞が必要です。

■ Explanation - Homework

1. When I called Ms. Wei at her office this morning, she said to me, "I will call you back sometime this afternoon." 「今朝ウェイさんの事務所に電話した時、彼女は今日の午後あなた（私）に電話すると言いました。」

解説：b. **will call** 「電話します」（意志未来の **will + call**）が答えです。その時のことを表現する未来の意味になる表現がここでは最適です。""で囲んだ文は誰かが言った文をそのまま引用する直接話法の文です。**when I called Ms. Wei at her office this morning** 「今朝私がウェイさんのオフィスに電話して彼女と話した」時に、ウェイさんは「今日の午後に～する」と言っていたということですので、**this**

私達は多くの課題に直面するであろう。だが、私達はまた、いかなる課題をも克服するであろう。

afternoon は **Wei** さんと話した時点から見ると未来のことを意味しています。

a. have called 「電話しました」(**have**+過去分詞) を入れると現在完了形になりますが、現在完了形では未来ことについて述べることはできません。**c. be to call** 「電話することになっている」(**be** 動詞の原形+**to**+動詞の原形) は動詞の原形で始まっているので主語に直接つけることはできません。**d. calling** 「電話すること、呼ぶこと」(動詞の **ing** 形) は **be** 動詞などが前に必要です。**calling** だけでは文の述語動詞になることはできません。

2. I am sorry but I cannot attend the meeting because I am going to attend a workshop tomorrow. 「すみませんがそのミーティングには出られません。というのは、明日私はワークショップに出席することになっているからです。」

解説 : **c. am going to attend** (**be going to**+動詞の原形) が答えです。**attend** は「出席する」という意味の動詞です。**be going to** はもともとすることになっていた予定を表現します。**the meeting** 「その会議」(冠詞+名詞) と **a workshop** 「(ある1つの) ワークショップ」(冠詞+名詞) は異なるものです。そのため、「ワークショップに出席するので、その会議には出られない」と考えるとつじつまがあう文になります。

a. have attended 「出席した、出席したことがある」(**have**+過去分詞) ですが、未来のことなので現在完了形にすることはできません。**b. be able to attend** 「出席できる」(助動詞+動詞の原形) は **be** 動詞が原形になっているので、このままこの文に入れることはできません。**d. was able to attend** 「出席できた」(**was able to**+動詞の原形) は **be** 動詞が過去形になっている点が問題です。

3. With the competition getting tougher, the management team will have to come up with more innovative ideas to survive in the market, even though how hard it may be. 「競争が厳しくなるに連れ、どんなに(アイデアを出すことが) 難しくても経営陣は市場で生き残るためより多くの革新的なアイデアを出さなくてはならなくなるでしょう。」

解説 : **d. will have to come up** 「(アイデアを) 出さなければならなくなるでしょう」(単純未来の **will** +**have to**+動詞の原形+副詞) が答えです。「状況がもっと悪くなったら、どんなに難しくても (**how hard it may be**) ~しなければならなくなるでしょう」の **how hard it may be** では未来のことを想定をしています。そのため、未来について予想をする意味の選択肢が適切です。

a. came up 「出した」(動詞の過去形+副詞) は過去のことを意味するためダメです。**b. be coming up** 「出しつつある、出すつもりである」(**be** 動詞の原形+動詞の **ing** 形+副詞) は動詞の原形から始まっているので、前に助動詞などが必要です。**c. are having to come up** (1人称複数、2人称単数・複数、3人称・複数の **be** 動詞+**have** の **ing** 形+**to**+動詞の原形+副詞) のように進行形にして **have to** を使うことはできません。